

第13回 WAAP 大会+第74回 EAAP 大会参加報告

東北大学大学院 農学研究科 博士後期課程1年

長井 凜太郎

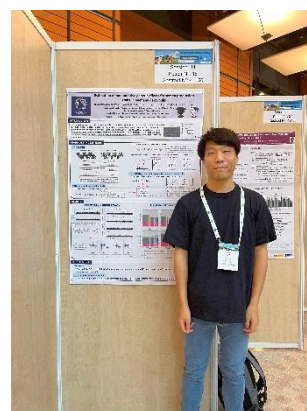
2023年8月にフランス・リヨンで開催された、WAAPとEAAPにおいて「Estimation of non-additive genetic effects for semen production traits in beef and dairy bulls」という題目で、ポスター発表を行いましたので、報告いたします。

【発表の概要】

ウシの繁殖形質である精液形質の遺伝的背景について、優性効果やエピスタシス効果などの非相加的遺伝子効果が与える影響は、これまでに明らかになっていませんでした。そこで本発表では、黒毛和種とホルスタイン種の雄牛を対象に、非相加的遺伝子効果が精液形質に与える影響を調査しました。非相加的遺伝子効果の推定は、ゲノムワイド関連解析（GWAS）と遺伝分散の推定の2つの観点から実施しました。GWASの結果、黒毛和種とホルスタイン種ともに非相加的な効果をもつ量的形質遺伝子座を検出しました。また、遺伝分散の推定の結果、黒毛和種とホルスタイン種ともに、エピスタシス効果の影響が大きいことが明らかとなりました。これらの結果から、ウシの精液形質では、非相加的遺伝子効果の影響が大きいことが明らかとなりました。

【発表の状況】

会場では、非相加的遺伝子効果に着目した報告はほとんどなかったためか、多くの方が私のポスターに目を留め、質問や意見をいただくことができました。例えば、「GWASの研究を行っているが、このような手法は見たことがない」や「なぜ非相加的遺伝子効果が大きいのか？」といった意見や質問を多くいただきました。国際学会への参加は初めてであったため、英語によるコミュニケーションに苦労しましたが、いただいた質問や意見に私の意見を返すことができましたと思います。



【発表の感想】

国際学会への参加は今回が初めてでした。本大会では、ヨーロッパをはじめとした多くの国々の研究者が参加しており、発表内容についてもウシやブタ、ヤギ等多岐に渡っており、興味深い発表が多くありました。国際学会は、発表準備や現地に行くまでが大変ではありますが、とても貴重な経験ができると思います。今後も、国際学会への参加し発表するために自身の研究活動に励んでいきたいと思います。

最後になりますが、本大会の参加にあたりご支援いただいた日本畜産学会の関係者の皆様、大会中にお世話になった先生方にこの場を借りて深くお礼申し上げます。